

平成 28 年度熊本大学武夫原会理事会 会議事録

日時：3月5日（日） 10：00～12:00

場所：熊本市民会館第9会議室

【出席者】

会員：村田会長、徳永副会長、野口（恭）副会長、山中常務理事、坂本理事（基金検討委員長）、野口健一郎理事（広報委員長）ほか（合計23名）

来賓：水元文学部長、深町法学部長

■村田会長挨拶（要旨）

今年度から大学との連携強化など、新しい取り組みを行っている。その一環で今年1月に法学部でシンポジュームを開催し200人近くの参加があり、大きな成果があった。更にこれまで、組織としてあるべき姿について検討を重ねてきた。主眼は、組織の活性化と経理（お金の使い方）の透明性確保、更には法・文学部との連携・支援の取組み強化。今後も、各支部等とも意思疎通を図りながら、大学との連携を強めていきたいと考えている。

■来賓紹介・挨拶

水元文学部長、深町法学部長

*代表して深町法学部長挨拶

（今年度の武夫原会主催シンポジューム等の学部支援に対し御礼の言葉等）

■九州連合同窓会総会の紹介挨拶（6月17日（土）に宮崎市で開催予定）

安田宏正理事（熊本大学九州連合同窓会会长）、村社秀継理事（宮崎武夫原会会长）

■審議 進行：村田会長

《議題》

1、熊本大学武夫原会則見直し（概要）について

坂本理事）概要説明。徳永副会長）補足説明

今回の見直しは、平成2年に確認された「本部と支部は主従の関係ではなくそれぞれ独立した関係」ということを踏襲した上で、基本的には本部の役割を再整理していること等が説明された。

その後、質問・意見等が出された。

- ・特別会員になる「職員」の範囲など会員の対象について幾つか質問あり、執行部から、条文化に当たって整理する旨の回答あり。
- ・会の運営は民主的であることは大事であるし、一方、機動性という側面も大事である。現時点で理事会として会則をがちがちに決めるのは難しいのではないかと考える。運営の中で決めていくものがあっても良いのでは、等の意見が出された。
- ・新たな理事会メンバーについては、6月の理事会で提案のこととし、理事会の成立要件については、今後検討していくこととした。（執行部）

こうした意見等に対し、村田会長は執行部で預かり、条文化して6月の定例理事会にお諮りしたいとし、了承された。

2、平成29年度事業計画（案）について

徳永副会長が概要説明。概要は以下のとおり。

- ・本部に納入された終身会員費は本部活動としてふさわしい項目のみに支出していくこと。
- ・予算については記載がないものもある。また記載金額の増額を含めた変更もあること、また6月の定例理事会では予算案を提出することの説明あり。
- ・学部寄付講座について、卒業生と在学生との交流、実社会について学ぶ機会、就活にもつながると考える。講師料は原則ボランティアとし、但し県外講師の旅費については一部を支出したい。田崎理事に検討していただいている。
- ・学部充実費については、ヒアリングを重視し学部の要望を聞き取っていく。
- ・50周年基金の検討について、熊本地震の発生によりこれまでの検討をストップさせている状況。昨年12月に学部長ヒアリングを行った。震災の影響も含める必要があるのではないか、とも考えている。
- ・会報とホームページによる広報について、棲み分けも念頭に、両輪として情報提供していく仕組みづくりに取り組む。
- ・事務局のオープン化について、課題もあるがそれらを整理し、開かれた場にしたいと考えているところ。
- ・関連で、水元文学部長から、文学部伊藤正彦氏所有の平江図の拓本について説明。極めて貴重なものであり是非とも設置をしたいので、費用について武夫原会の支援をお願いしたい旨述べられ、20万程度を武夫原会から支援（学部充実費の中から）できればとの提案があり、異論無く承認された。

3、その他

- ・熊本地区武夫原会交流会（仮称）について【資料⑤】

徳永副会長から、熊本地区において開催する交流会（仮称）について提案説明があり、本部経費を充当しない形で実施することとし、次の内容での開催について了承された。

6月24日(土) 黒髪キャンパス内くすの木会館ほか

内容) 交流会(17時～)

参加費徴収(卒業生4千円など)

当日は本部行事として理事会及び学部支援講演会を開催する。3月末発行の会報及びH.Pにて周知する。

理事へは、理事会案内時に別途ご案内する。

以上